



浜松市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画



ユニバーサルデザイン(UD)とは?

年齢、性別、身体能力、国籍等人々が持つ様々な特性や違いを超え、すべての人に配慮して心豊かな暮らしづくりを行っていかうとする考え方です。
(「浜松市ユニバーサルデザイン条例」より)

浜松市のユニバーサルデザインへの取組

平成12(2000)年度：UD室を設置し、全国でもいち早くユニバーサルデザインへの取組を開始しました。
平成13(2001)年度：市内の小学校にUD学習資料の配布を開始しました。
平成14(2002)年度：全国に先駆けてUD条例を制定しました。
平成22(2010)年度：国際的な会議である「第3回国際UD会議2010inはままつ」を開催しました。

浜松市ユニバーサルデザインのシンボルマーク

ユニバーサルデザインの“U”とデザインの“D”をモチーフに親しみのもてる笑顔のキャラクターとしてデザインされました。「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指す浜松市民を、優しい笑顔で見守ってほしいという願いが込められています。



第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画の愛称

【U】: Universal Design (ユニバーサルデザイン) と
【ゆう】: 優しさ、自由、友愛、You (あなた) を
心を表す【♥】(ハート) で繋げました。



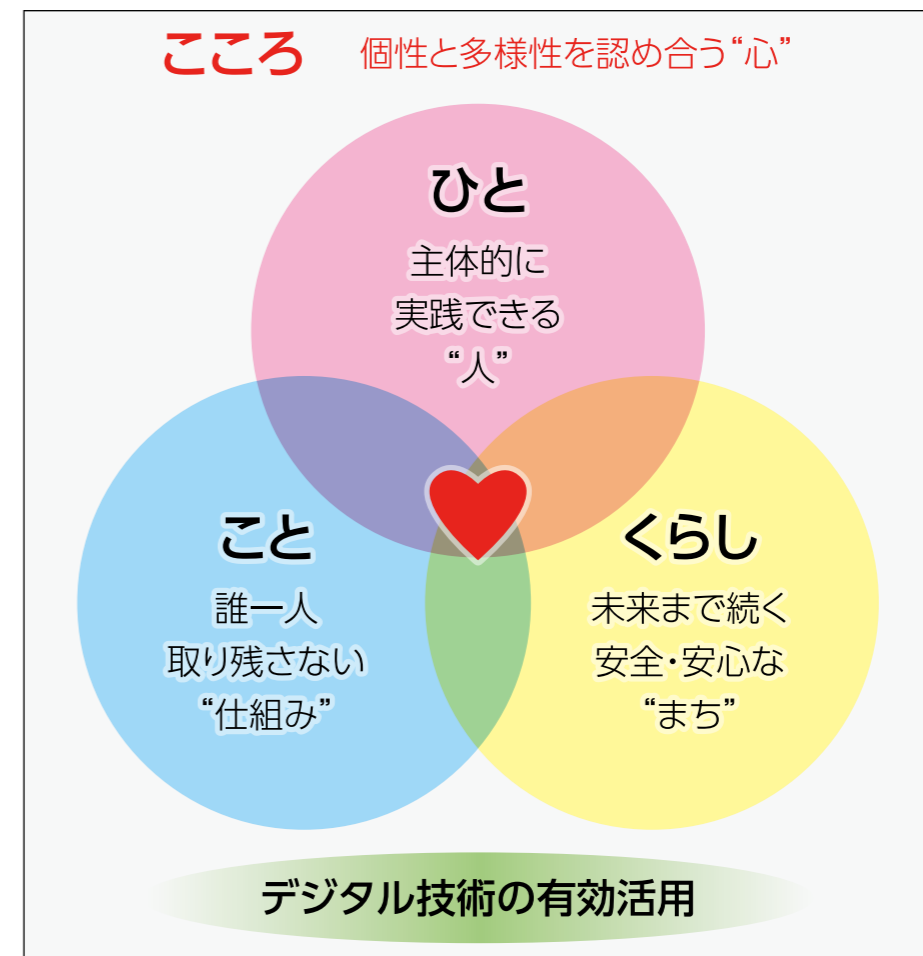
基本理念

「思いやりの心が結ぶ優しいまち」

～ユニバーサルデザインが当たり前の社会～

誰もが自らの考えで選択し、自由に社会参画し、いつまでも安全かつ安心して快適に暮らすことができるまちとなるように、市民、事業者、市が互いに連携・協力、実践し、「人づくり」「仕組みづくり」「まちづくり」を進め、ユニバーサルデザインが当たり前の社会となる「思いやりの心が結ぶ優しいまち」の実現を目指します。

基本目標



誰もが生き生きと暮らせるまちづくりを行っていくためには、市民が中心となり市民の視点から、ユニバーサルデザインを主体的に行動、実践していくことが必要です。

そこで本計画では、ICT (情報通信技術) などのデジタル技術を有効活用しながら、「ひと」「こと」「くらし」の3つの柱のすべてを、「こころ」が覆う、あるいは「こころ」を込めるという基本目標を掲げ、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくことを目指します。

ひと 主体的に実践できる“人”

多様性を理解し、認め合うことができる人

誰もが活躍できる社会

- 企業伴走型障害者雇用推進事業^{※1}
- パートナーシップ宣誓制度
- 多様性理解のための教育
- 福祉体験講座
- パラスポーツの理解と啓発

多様な人との交流

- 障がいのある子供と健常児との交流促進
- 世代間交流事業
- 外国人学習支援センター事業

主体的に行動し、実践できる人

UDの深化・定着

- UD学習支援
- UD教材開発《重点事業》
- 教職員研修
- 職員へのUD推進
- UD週間
- 市民啓発
- 事業所啓発

UDの行動・実践

- UD提案事業
- 大学等との協働
- 市民リーダーの養成と協働
- ユニバーサル農業^{※2}の推進

※1:障害者雇用を検討又は実施している企業が円滑な障害者雇用を実現するための継続的な助言及び支援を行う事業

※2:障がい者・高齢者などを含むすべての多様な人々が従事できる農業

こと 誰一人取り残さない“仕組み”

自らの考えで選択し、社会参画できる仕組み

誰にでも伝わる情報発信

- 多言語生活情報の提供
- 市政情報のUD化
- 防災情報のUD化
- 地域のUD情報等の発信
- ICTを活用したUD情報の発信
- 子育て情報の発信

誰もが社会参画できる環境整備

- シルバー人材センター支援
- 障害者・高齢者・女性就労支援
- 一人一人の状況に応じた教育支援
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 多文化共生センター事業
- オンライン配信による音楽に親しむ機会の提供
- ユニバーサルツーリズム環境整備

いつでも、どこでも、誰でもつながる仕組み

新しいつながりの創出

- デジタルデバイド(情報格差)解消のための講座
- 電子図書の推進
- 自治会活動の発信と参画促進
- 市内間交流事業
- やさしい日本語の活用推進

誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり

- 電子市役所の推進
- ICTを活用したコミュニケーション支援《重点事業》
- 消防情報通信ネットワーク事業
- 緊急通報の円滑な対応

くらし 未来まで続く安全・安心な“まち”

安全・安心かつ自由に移動できるまち

誰もが利用できる交通環境

- 民間交通事業者UD化支援
- 浜松自動運転やらまいかプロジェクト
- 地域バス・自主運行バスの運行
- 共助型地域交通^{※3}等推進モデル事業

誰もが暮らしやすい面的な生活空間の整備

- わかりやすい案内サイン設置
- ピクトグラム周知啓発
- 八幡駅周辺バリアフリー化《重点事業》

いつまでも続く快適なくらし

誰もが利用できる施設整備

- 公共建築物等のUD化
- 公園のUD化
- スポーツ施設のUD化
- 協働センター等へのWi-Fi整備

施設の適正な維持管理

- 公共建築物等のUD化(再掲)
- 浜松駅周辺道路におけるUD施設の維持管理

※3:自家用車を使った共助型交通の導入やスクールバスの有効活用、予約システムなどによる持続可能な地域交通

重点的な取組

ひと

《重点事業》

UD教材開発

いつでもどこでも閲覧できたり、現地に行かなくても仮想空間で体験できたり、リモートによるUD啓発教材のデジタル化の開発に取り組みます。



こと

《重点事業》

ICTを活用したコミュニケーション支援



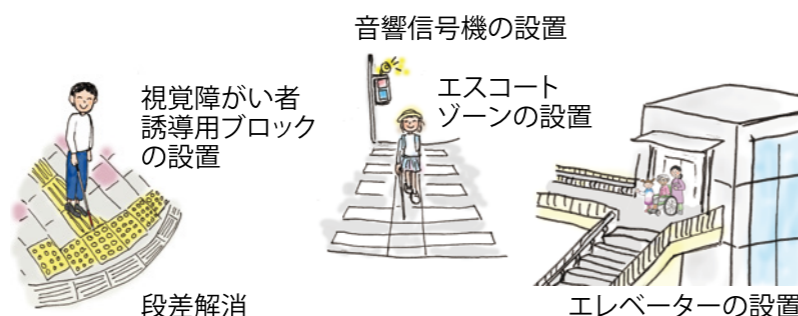
タブレット端末を活用した多言語通訳サービス、手話通訳、音声文字化によるコミュニケーション支援ができる環境づくりを図ります。

くらし

《重点事業》

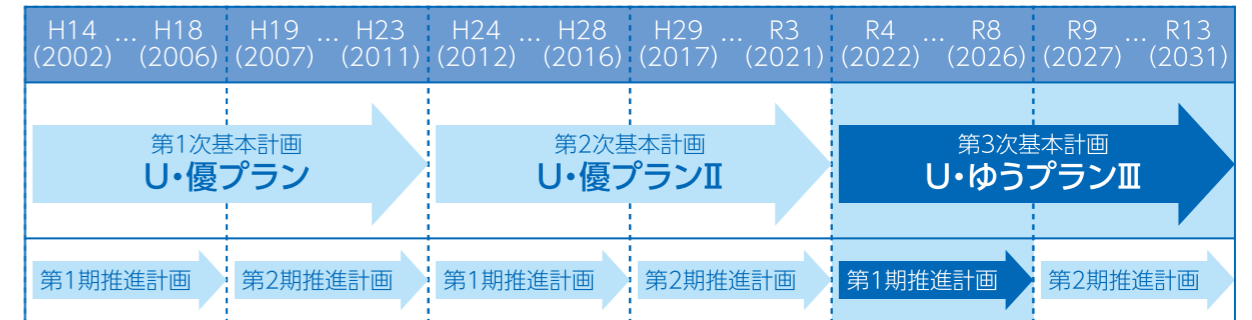
八幡駅周辺バリアフリー化

八幡駅のエレベーター整備や、八幡駅周辺の歩行空間の交通環境の改善に取り組みます。



計画期間

基本計画は令和4(2022)年度から令和13(2031)年度までの10年間とし、推進計画は5年ごとの2期に分け、第1期を令和4(2022)年度から令和8(2026)年度までとし、令和8(2026)年度に見直しを行い、必要な修正を加えることとします。



計画の指標

※現状は「令和2年度ユニバーサルデザイン意識調査報告書」の結果による。

ひと「主体的に実践できる“人”」

指標	現状(令和2年度)	5年後目標
市民のUD理解度 (詳しく知っている、知っている、と回答した割合)	51.5%	60%
思いやりのある行動をしている人の割合	65.7%	80%
事業所のUD理解度 (詳しく知っている、知っている、と回答した割合)	51.7%	60%

こと「誰一人取り残さない“仕組み”」

指標	現状(令和2年度)	5年後目標
誰もが就業できる機会が確保されていると感じる人の割合	34.1%	40%
誰もが文化、スポーツ活動などに参画できる機会が確保されていると感じる人の割合	46.9%	50%
事業を営む上でUDを取り入れている事業所の割合	22.7%	30%

くらし「未来まで続く安全・安心な“まち”」

指標	現状(令和2年度)	5年後目標
公共交通機関について、利用しやすいと感じる人の割合	56.1%	60%
自分の住む地域の歩道について、利用しやすいと感じる人の割合	41.4%	50%
防災・防犯などの面で誰もが安全・安心に暮らすことができる地域だと感じる人の割合	54.3%	70%



第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画のロゴマークは、静岡文化芸術大学デザイン学部の山本佐世子さんがデザインしてくれました。

人の繋がりを大切にしたいという意味を込めてハートの部分をリボン風に、濁点を丸く色をつけてポップな印象に、そして、色もピンクや水色のような淡い色を使って優しいイメージを表現しています。

また、本計画書は、静岡文化芸術大学の伊豆裕一教授に助言や指導をいただきながら作成しました。

第3次浜松市ユニバーサルデザイン計画

令和4(2022)年3月発行

浜松市 市民部 UD・男女共同参画課

〒430-8652 浜松市中区元城町103-2

TEL:053-457-2364 FAX:053-457-2750

E-mail:ud@city.hamamatsu.shizuoka.jp